

# 地質ニュース

昭和 55 年 11 月

第 315 号

1980

解 説	日本列島の大構造についての一考察 とくに中部本州における新生代地殻変動について ……河 合 正 虎… 6
	対話型データ処理 その1 文字列を使ったコードによるデータの選択 ……吉 井 守 正…13
	賀田貞一と「沖縄宮古八重山紀行」……………福 田 理…18
海外事情	メキシコの石油資源 (4)……………竹 田 英 夫…26
トピックス	群 測 群 防……………高 橋 博…38 —中国の地震対策— その1
	ハワイ・キラウエア火山 —その4—……………須 藤 茂 三 村 弘 二 松 幸 敬 曾 屋 龍 典 ……55
地学と切手	中米エルサルバドルのイザルコ火山切手 ……P. Q…37
	日 本 鉱 床 分 布 図……………五十嵐 俊 雄 岡 野 武 雄 ……64

口 絵	ハワイの火山噴火物……………須 藤 茂 三 村 弘 二 松 幸 敬 曾 屋 龍 典 ……64
-----	---------------------------------------------------------

## 編 集 地質調査所

### 表紙の写真

### 太陽の家 ハレアカラ・クレイター

おそらく100万年以上の歴史をもつハワイ・マウイ島の東マウイ（ハレアカラ）火山は、1790年にも噴火した記録をもつ巨大な盾状火山である。山頂のハレアカラ・クレイターは、2本の浸蝕谷が山頂部で会合してできた一種の浸蝕カルデラで、11×3kmと東西に細長く、深さ800m余り。

車道の整備されたクレイター西縁上のハレアカラ国立公園ビジター・センターから東をのぞくと、ハワイ語で太陽の家を意味するハレアカラの景観が一望できる。スカイラインのカルデラ壁は、約80万年前に形成されていたソライト質の盾状火山表面をおおって約40万年前まで活動したとみられるKula火山岩類の断面で、ハワイアイトを主とする、ひき続く休止期にカルデラをつくった2本の谷の出口は写真右上隅と手前左方。正面の前後に並ぶサンダー・コーン群は、カルデラ底を埋める後浸蝕期のHana火山岩類で、主にアルカリ質かんらん石玄武岩とバサネイトドからなり、最大径800m高さ180m程で、この火山の顕著な2つのリフトゾーンを結ぶ東北東-西南西方向に配列している。

標高3,300mを越える地点からの眺望は、強い日射しに目を奪われたあとの寒さが肌に迫る。このような見晴しも、風雲に閉ざされがちで長くは続かない。

（文 三村弘二 写真 正井義郎）

発行 株式会社 実業公報社